

# 本堂写真新聞

平成二四年第一号

□上棟式（十二月八日午後一時）

明源寺本堂修復工事は、有縁門信徒の懇志をいただき、平成二十三年三月一日より始まりました。修復工事は、宮大工の専門企業である金剛組。

そして、一般的には棟上に相当する上棟式が、十二月八日に報恩講に先立ち金剛組により実施されました。あいにくの小雨模様の天気でしたが、八十名以上の門信徒の皆さんが参加。

●上棟式に先立ち庫裡にて勤行



●全員で、紅白の綱を引く。皆さん、初めての事で興味深々。



本堂大屋根の上で、大工さん達が打たれる木槌の音もさわやかに響きました。流石に古式ゆかしい上棟式です。

この後、金剛組の案内で、完成に近づいた本堂の修復状況を見学。挟みばり工法等の大規模な耐震構造、そして金剛組伝統の素晴らしい匠の技に感心する事しきりでした。

□報恩講（十二月八日午後二時）

平成二三年度報恩講は、庫裡にて修行されました。住職も、庫裡での報恩講は初めての事。しかし、遠近各地から参詣があり、百名前後の参詣となりました。

●庫裡（くり）での報恩講という事で、出勤の僧侶は、黒衣・五条袈裟。「正信偈」を参詣者全員でお勤めました。



自坊の庫裡（くり）は、その昔（江戸後期）、本堂再建（二八四八年）に先立ち、ご門徒がお参りできるように建てられた道場形式の庫裡。ですから、最大限一五〇名程の人数は収容できません。午後二時からの報恩講ですが、今年はお斎（とき）は本堂修復工事の関係で中止。

●「正信偈」を拝読中皆さん 遠近各地から百名以上のお参りです。



●講師の紹介をする住職



●今年も講師は、ルーマニア人の女性アテナ先生。報恩講の講師は、三回目



●今年も、昨年結婚されてご主人と赤ちゃんと一緒に来寺されました。



彼女は、縁あって日本に來日。そして、浄土真宗のみ教えにあわれ、真宗の僧侶に。キリスト教からの改宗です。一番の理解者であったお父さんは、もとルーマニア空軍の大佐。あの旧ソ連のチェルノブイリ原発事故に応援に行き、被爆され、昨年亡くなられました。自坊にも、三年前に彼女と來寺。原発事故の恐ろしさと真宗のみ教えの素晴らしさを話されました。そして、日本でも福島原発にて大惨事。人間の制御できないものを作ってはいけないとのお話は心にしみるものでした。